

14. 5-53



'4.5

53

彙報別冊第五十三號

滿蒙の經濟問題に就て

全國經濟調查機關聯合會



始



14.5-53



滿蒙の經濟問題に就て

(昭和七年二月二十四日第二十五回關西支部會)

法學博士 高柳松一



發行所寄贈本

唯今御紹介の通り、私は先月奉天へ参りまして、滿蒙新國家の建設事業の一端を窺ふ機會を得たのであります。歸つてから、既に各所でもいろいろ話も致しましたし、又其の後新國家の建設事業は着々進捗いたしましたして、日々新聞紙上に報道もされて居りますが、此の際私は新國家の經濟問題、殊に我國との關係に付て約一時間ばかりお話しして見たいと思ひます。少し咽喉を損めまして、實は今晚の講演をする爲に昨日は一日休んで居つたのであります。まだすつかり良くなりませぬから、成るべく大きい聲を出す積りではありませんけれども、聞き苦しい所があるかと思ひます。豫め御容赦を願つて置きます。

滿蒙新國家の建設に付ては、政治上の方面のことは大體新聞に傳へられて居りまして、既に御承知のこと、思ひますが、奉天省、吉林省、黑龍江省、熱河省、及び東蒙古の二つの王國が各々自治制を施し、其の六つの自治體が相合して、一つの聯邦共和國を組織すると云ふのであります。其の省長の人選も既に定つて居りまして、即ち奉天省は元の奉天省長で、最も有力な臧式毅、吉林省は純粹の滿洲人で、元吉林省軍の參謀長をして居た是亦有力者である熙洽、此の二人は何れも日

本の士官學校出の軍人であります。黒龍江省は哈爾濱事件等で少し遅れましたが、結局齊々哈爾事件で有名な馬占山に定つたやうであります。是は馬賊出身でありますが、實力を有つて居りますから、省長としても有力な人であります。熱河省は私が彼方に居りました先月はまだ其處まで進んで居りませぬでしたが、現熱河省長の湯玉麟が新滿蒙國家に参加すると云ふ譯で、其の息子も今回の奉天會議に出席したと云ふことであります。是亦馬賊出身でありますが、矢張り有力な人です。又蒙古の二人の王様は無論家柄であつて、是は文句の無い支配者であります。尙ほ哈爾濱の張景惠と云ふ人は故張作霖とは兄弟分で、黒龍江省に於ける有力者でありますが、兵力を有つて居らぬ關係上、黒龍江省長の位置は馬占山に讓つて、自分は中央政府に據るやうであります。而して共和國として大總統を置きますが、其の大總統は年期の無いものであつて、所謂終身の大總統であるか、或は年期を切つても、何回も重任すると云ふことにして、元の宣統皇帝が擁立せられることになつて居ります。或は之を大總統と云はずに、監國とか執政とすると云ふ話もありますが、何れにしても事實は大總統と云ふべきものでありまして、實權は國務總理となる人が握る譯であります。是等は私の奉天に居た時分から聞き及んで居る所であります。其の他奉天に於ける政治家として于仲漢、趙欣伯、袁金鎧と云ふやうな要人が屢々集つて會議を開いた結果、何れも新國家を造ると云ふことに意見が合致して、今や憲法其他根本法規の制定等も着々準備中であります。

此の新國家を造ると云ふことに付きましては、表面は何處までも支那人自ら進んで其の建設に當ることになつて居りますが、事の茲に至りまするに付ては無論日本の力、言ひ換へれば日本の陸軍の壓力が加つて居る譯でありまして、今日では政治家であらうが、軍人であらうが、如何なる人でも日本に反對する者は到底彼處に存在することを許さぬのであります。隨つて今申したやうな支那の幹部連中も其處は能く承知して居りまして、日本と協調し、日本の指導を受けて此處に善政を布くことが滿蒙三千萬人の幸福であり、日本に楯を突いて、又滿蒙を再び混亂の地位に陥らしむることは、自分達の爲めにも命がけの仕事であるし、又三千万民衆の爲にも不利であると云ふので、茲に一致協力して新國家を造ると云ふ熱誠の籠つた運動が起つた譯であります。無論其の裏面に於て彼等がどう考へて居るか、それは分りませぬが、さう云ふことは我等に決して口外いたしませぬし、彼等は善政を布いて、新しい國家を治めて行くと云ふことに付て何等異議ないのであります。又滿蒙に於ける他の外國人の意見も、ロータリー・クラブの會合や其の他の機會に於て、私は聽いて見ましたが、お世辭かどうか知りませぬが、彼等も此の國はどうしても日本が指導し、日本の力に依つて治安の維持を圖つて行かなければならぬものだと言つて居ります。殊に獨逸人ヨハネス・クラウスと云ふ博士は大學教授で獨逸の新聞を代表して來て居るのださうであります。奉天に於てラヂオで滿蒙は永久的に日本の委任統治國にするが可いと云ふ説も述べて居りました。其の他外人の間には日本が陰に隠れて滿蒙を事實上の保護國とすると云ふやうな、そんなまどろっこいことをやらぬで、いつそのこと日本が之を併呑したらどうか、又併呑すると云ふことがいけなければ、之を委任統治國として、日本が直接手を出した方が捷徑ではないかと云ふやうな意見を露骨に唱へる人もありますが、併し日本としては屢々聲明して居る通り、領土的野心は無い、門戸開放、機會均等と云ふことを言ふて居りますから、直に滿蒙を併合するとか云ふことは出来ない譯であります。併し實際上の保護國として此の滿蒙の新國家を指導し、間接に之を支配して行くと云

ふことは、是は動かせぬ所でありまして、軍部の意嚮は正にさうであります。日本の中央政府の意嚮は何處まで進んで居るか知りませぬが、軍部は誰が何と云はうと、日本の中央政府が何と云はうと、國際聯盟が何と云はうと、英米が何と云はうとも、是は動かすべからざる既定の事實として腹を決めて居るのでありますから、今日本が滿蒙を握つた以上、絶対に之を放すことはないと思ふのであります。

然らば將來日本が之をどうして行くかと云ふことになりまして、恐らく滿蒙の中央政府及び各省の地方政府に日本の顧問を入れることになりませう。或は若し日本の顧問を入れることがいけないと云ふことになれば、日本人であつて滿蒙の國民に歸化したる者が政治の要部に入り、司法行政の凡ゆる方面を指導して行くことになりませう。現在でも奉天省には指導員と云ふ若い青年が居りますが、そんな者ではなく、もつと立派な人が各方面に入つて此の國を指導し、而して最高の指導と云ふか、指揮をする者は恐らく關東軍司令官と云ふものが形を變へて、或は關東都督とか、或は關東軍司令部とか名前はどうでも可いが、兎に角當分の間は軍部で以て指導して行くことになるのでありませう、と申すのは、新國家が出来ても、猶ほそれが固るまで二三年の間は色々厄介な問題が發生いたします。其の一つは無論匪賊の討伐と云ふことではありませんが、是はなか／＼厄介な問題でありまして、殊に匪賊の中には昔からの馬賊稼業の奴も居りますし、又今回の事變に依つて飯の食へなくなつた浮浪の無頼漢が澤山出来まして、匪賊の種類と數が非常に殖えて來ましたから、此の匪賊討伐と言ふことは相當長い年月を要するものと見なければならぬ。臺灣などでも藩人を討伐するのには五年十年を要したのでありますから、滿洲の匪賊を平げ、少くとも滿洲の主なる所に於て治安の維持が出来るまでには相當の年限を要するの

でありまして、矢張り直に兵力を用ひ得る所の軍人が滿洲の新國家を操る方が便宜で、文官ではさうは行くまいと思はれます。だから官制上何うなるか知りませぬが、例へば朝鮮總督のやうな、兎に角軍人の長官が居つて、滿蒙新國家を指導し指揮する最高の權力を握ることになるだらうと思ひます。

政治上のことは大體右様であります、治安の維持と言ふことが第一でありまして、第二に必要なことは財政であります。治安の維持には、少し又話が戻りますが、兵隊は置かぬと言ふことであります。今度は國防に關することは日本の方で引受け、従來の巡警（鐵砲と刀を持った日本の兵隊と巡査のアイノコのやうなもので、支那のどの地方にも居ります）を能く訓練して、之を以て小さい匪賊の討伐もやらせ、直接國內の治安維持に當らせるのであります。此の巡警は軍隊と違つてさう金を要しませぬから、滿蒙の財政は比較的従來よりも多く要からぬことになるのであります。

即ち従來は奉天省でも、吉林省でも、黑龍江省でも、熱河省でも収入の大部分、八割位までは軍備に使つてしまつたので、或は直ぐ兵營を造るとか軍器を買入れるとか、兵隊を養ふとか、或は北平の方に兵を出すとか、又引込ませるとか言ふやうなことに多くの金を要したのであります、今後は唯巡警を維持すれば可いので、大砲を買ふ必要もなければ、新兵を募集する必要もないことになりまして、軍費が非常に減つて來ます。普通の行政費だけなら、さう澤山な金は要らない譯であります。それで中央政府の經費としては最少限年額五六千萬圓（銀弗）多くて一億圓位で賄へるだらう。其の金は關稅收入と鹽稅收入及び阿片の專賣と酒煙草の税金位で優に出て來るだらう、又地方の經費は従來行はれて居る地租營業稅其の他の雜種稅でやつて行けるだらう、支那人と言ふものは治安の維持をして呉れて、生命財産が安全でさへあれ

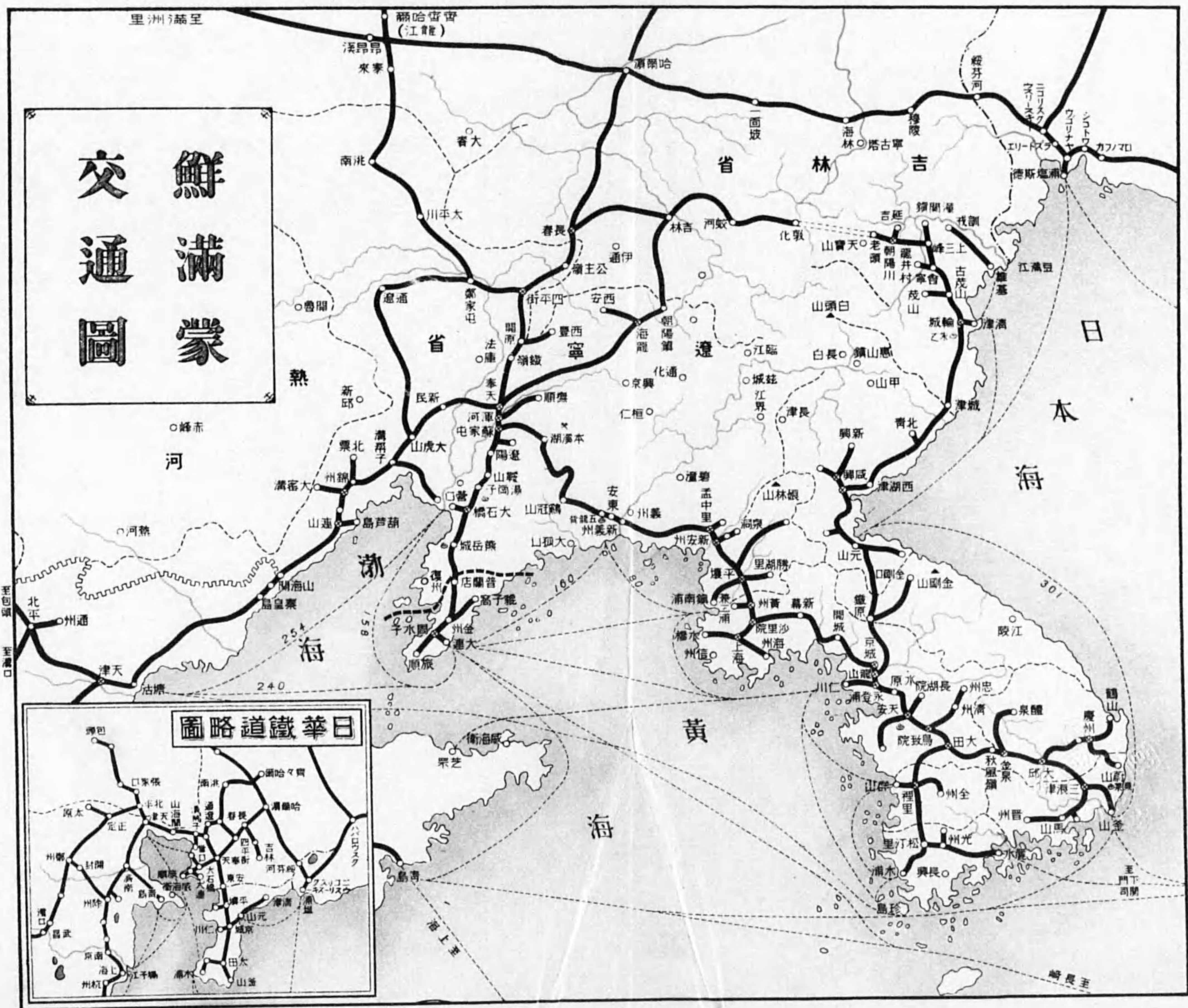
ば、それで大に満足して、其れ以上橋を架けて呉れとか、學校を建て、呉れとか、色々な文化施設や社會施設をして呉れと言ふやうなことは大體に於て要求しない國民であるから、行々は種々の文化施設もするとして、差當りはそんなことに餘り金を使はないでも、兎に角治安の維持をして、財政の收支のバランスさへ取れさへすれば、先づ此の國は成立つのではないか、斯う言ふやうな考が多かつたのであります。

一體先般の軍の會議では、法制に關する會議、財政に關する會議、金融に關する會議、産業政策に關する會議と言ふやうに、四つの會議がりましたが、何も原案と言ふものがあるのではなく、又軍として何も意見を述べる譯でもなし、唯我々内地の主として學者と滿鐵や關東廳の人が十數名集つて、軍から出した題目に對して意見を述べるだけで、結局何も決議したのでありませぬから、どう言ふことに決つたと言ふことは申されませぬが、大體會議の模様を見て、今申したやうなことを私は感じたのであります。

金融の會議には大阪から松崎教授東京から土方教授、その他滿鐵の人や木村増太郎氏などが出て居りまして、私は出ませんでしたから、傳聞しただけであります。會議の様子は、何處で開いたと言ふことも、誰々が集つたと言ふことも、どう言ふことを議したと言ふことも絶対秘密でありますけれども、今日は既に新國家も出來つゝありまして、或部分に付ては略々一般に知られても居り、又或部分は常識でも想像が付きましますから或程度までは話しても差支なからうと思ひます。

金融の問題は随分やかましかつたやうでありまして、銀本位に依らず、滿蒙新國家も日本と同じ貨幣制度を採用しやう





金融の問題は随分やかましかつたやうでありまして、銀本位に依らず、滿蒙新國家も日本と同じ貨幣制度を採用しやう

せんでしたから、傳聞しただけであります、會議の模様は、何處で開いたと言ふことも、誰々が集つたと言ふことも、どう言ふことを議したと言ふことも絶対秘密でありますけれども、今日は既に新國家も出來つゝありまして、或部分に付ては略々一般に知られても居り、又或部分は常識でも想像が付きますから或程度までは話して、差支なからうと思ひます。



と言ふ希望が多かつたやうであります。一面に於ては支邦人は銀に慣れて居るから、銀本位が可いといふ説もあり、結局先づ差當りは銀で統一して、適當の時機に金本位に直さうといふことになつたやうに、私は聞いて居ります。最近新聞に傳ふる所も明瞭を缺きますけれども、先づ以て銀本位にし、段々進んで金本位に直して行かうといふことになるやうであります。之に對して朝鮮銀行などは非常に不満なやうであります。兎も角も銀で統一するといふこと其の事も實はなかなか容易ならぬ問題でありまして、支那本國の貨幣制度の混亂して居ることも御承知の通りであり、貨幣制度の統一と言ふことは三十年來の懸案であります。一向實現は出來ないのであります。滿蒙新國家に於ては、範圍が狭くなりますから日本が少し財政的に援助を與へれば、統一も出來やうと思ひますけれども、何しろ貨幣の種類も現在は非常に多く、馬蹄銀もあれば弗銀もあり、十錢二十錢の補助貨もあれば、一錢二錢の銅貨もあるし、孔の穿いた一厘錢もあり、又紙幣にして弗の紙幣もあれば、奉天や吉林、黑龍江省等の不換紙幣もあり、何々銀行の紙幣もある、又兩にしても安東縣の兩と營口の兩とは違ふとかいふ風に、實に厄介至極なことになつて居りますから、之を統一するといふことさへも實に困難であります。随つてどうせ困難なことなら、初から金本位に統一したらどうかといふ説も出る譯であります。兎に角銀本位でやつて行かうといふことになつたらしいのであります。

財政の問題は前申した通り比較的容易に解決出來やうと思ひます。現在は混亂して租稅收入は大分減つて居りますけれども、軍費が減りますから、關稅、鹽稅、阿片專賣、酒煙草の稅金等で五六千萬圓乃至一億圓もあれば中央はやつて行ける譯であります。

産業政策に付ては色々の問題が含まれて居りまして、唯お互に意見の交換をただけであります。私共としては自分の従来有つて居た材料以外に種々の材料を滿鐵から貰ひ、又滿鐵の人達から色々な意見を聴いて、大に参考になりました。

八

今茲に一々詳しいことは申し上げませぬが、愈々滿蒙新國家が出来ることになりましたれば、先づ最初に決定すべきものは、治安の維持と財政の事であり、財政の中でも第一に關稅の問題であります。之に付ては二日ばかり會議を開いて意見の交換を行ひましたか、是は滿蒙新國家の財政に重大なる關係があると同時に、滿蒙と日本の經濟に重大な關係があるのであります。此の關稅をどうするかといふことに付ては是亦何も決議した譯ではありませぬが、新國家が出来れば新國家は獨立國として關稅自主權を有するものであることは當然でありまして、其の關稅自主權を新國家が行施するといふ場合に新しい關稅率を布くか、或は従來支那として採用して居る稅率を其の儘踏襲するか問題でありますし、又極端な論者は關稅は要らぬ。自由貿易で行かうぢやないかと言ふ人もありましたが、此の關稅問題に付ては實は二重に厄介な關係を有つて居りまして、全然關稅を廢めると言ふことは出来ないであります。

第一の關係は、支那の關稅は外債及び北清事變義和團事件の賠償金の擔保になつて居ることあります。で、滿蒙が獨立國となつた場合、滿蒙國としてそれ等の支拂義務を全然負擔せぬでも可いか、又分擔するが可いかといふ問題であり、是は新國家の國際關係を善くする爲に、公平なる割合に於て關稅收入が擔保となつて居る外債の元利支拂は分擔するが可からうといふ説が多いやうでありました。さうすれば、是は矢張り關稅を取らなくちや其の分擔が出来ない譯であります。



第二の關係は、海關行政に付て支那本土と同じやうに滿洲にも外國人が入つて居ることあります。滿洲に於ける主たる海關は安東縣、大連、營口、哈爾濱、龍井村等でありまして、其の外に滿洲里とか、瑯璁とか、琿春とか、方々に出張所がありますが、併し海關として獨立して居る所は先に述べた安東縣、大連、營口、哈爾濱、龍井村の五箇所でありまして、斯ういふ所には海關行政の事務を執る爲に支那人と外國人が入つて居るのであります。大連だけは支那と日本との特殊の協定に依つて、一人の英吉利人が入つて居るだけで、海關長以下すつかり日本人でやつて居りますが、其の他は安東縣にしても、哈爾濱にしても、營口にしても、龍井村にしても皆外國人が海關長でありまして、安東縣と營口及び龍井村は日本人が其の次席を占めて居りますが、哈爾濱の如きは日本人は一人か二人居るだけで、あとは皆外國人でありまして、滿洲の稅關には外國人が大體百五十人ばかり居ります。それ等の外國人が居る所を新國家が本當に自分の稅關にする爲には、之を占領して外國人を皆追拂らつてしまはなければならぬと云ふ問題が出て來るのであります。然るに之を追拂ふには支那の兵隊がやらなければならぬので、日本人が出る譯に行きませぬから、一寸厄介であります。殊に又大連稅關は日本の租借地に屬するもので、彼處へ支那の兵隊が來て、日本人を追拂ふ譯に行きませぬから、是又特に其の處分付には考究しなくちやならぬ問題であります。

そこで滿洲に於ける稅關は新國家が兵力を以て奪つてしまふか、或は従來の儘にして置いて、金だけ取る方法を講ずるか、即ち稅金は彼等に取りまして、外債擔保のものだけは南京へ送つてやり、残りを新國家が取れば可いぢやないかとか色

九

々な意見がありました。結局私が歸つて来るまではどうなつたと云ふことはありませぬので、近い内に又私が彼方へ行かなければならぬのは、さう云ふことの相談もあるのであらうかと思ひます。どう云ふ形でやつたら、一番國際關係がうまく行つて、収入を確實に新國家が握ることが出来るか、下手なことをすると、非常に國際關係を悪くするし、同時に日本の税關吏員の立場が甚だ困難になつて来るのみならず、日本人の税關吏員は漢口とか、其の他支那本部の各地方にも居るのでありますが、さう云ふ先生方が大に睨まれて、報復的に皆免職されると云ふことになつても困るし、是は餘程デリケートな問題でありまして、十分考究して行かなくてはならぬと思ふのであります。

次に税率をどうしたら可いかと云ふことで大分議論がありました。大體滿蒙は農業國であるから、關税は成べく低い方が可い、現在支那に行はれて居る關税は即ち昨年一月一日から實施されたもので、多分に保護的色彩を有つて居るから、之を此の儘採用することは可くない。それよりも千九百二十九年の二月から實施した所の舊税率は北京の關稅會議の趣旨を採つて出來たもので、最低從價が七分五厘から最高二割七分五厘に達する七種類の階段を付けた所謂七種差等税率である。あれを採用した方が可いと云ふ説が相當強くありました。又中には取れるものをさう遠慮することは無い。門戶開放機會均等と云ふことで、現在支那で取つて居るものを滿蒙新國家が取つたからと云つて、列國が文句を言ふことはないのだが、此の儘で可いぢやないかと云ふ議論もあり、或は新國家草創の際であるから、税率を高めると云ふことは厄介であるが、現在の支那が取つて居る税率は高過ぎるから、之を半分にしてもしてやると云へば、諸外國に於ても上げることには文句はあつても、現在より低くすることには文句は無い筈であるから、關税は收入主義に依つて成べく低い方

が可い、而して現在支那と日本の間には綿布、海産物等に付て特惠關税があるが、之を滿蒙新國家に持つて來ても、是亦各國に文句はないだらう。先づ其の程度に於て日本と滿蒙新國家との間に特惠關税を設けると云ふことは何れも文句はあるまい、併しそれよりも進んで、色々税率をなぶつて、更に特惠關税を殖すとか、或は滿蒙新國家と日本とが關稅同盟を結ぶと云ふやうなことを今やると機會均等門戶開放主義に反すると云ふやうなことで、各國から文句があるから、マア差當りは低い税率で以て現在支那と日本との間に存する特惠關税を持つて來る位で満足するが可からうと云ふやうな意見が多いやうでありました。

而して支那の輸出貿易を阻害する輸出税は廢止しやうと云ふ意見であります。是だけ行つても、滿蒙新國家と日本との貿易は大に増進すると云ふことになるのであります。それは何故かと申しますと、滿蒙と支那本土との貿易は現在に於ては殆ど税金は課かつて居らぬのであります。それは全然課かつて居らぬ譯ではありませぬ。支那では自國の港から自國港へ移出される場合に移出税と云ふものをかけますから、さう云ふものは無論課かるのであります。例へば上海から營口に物を送る時には、上海でエクスポート・デューティと云ふものを課け、營口に來ると、又營口で一種の移入税を課けて居たのであります。併し此の移入税は昨年五月から廢止しましたので、現在の所上海では課税して居りますが、滿蒙に於ては支那から來るものに對しては課税して居らぬのであります。所が日本から行くものには税金が課かつて居るのであります。茲に滿蒙新國家が出來れば、支那本土は外國と看做す譯でありますから、支那の他地方から來るものにも税金が課かる譯であります。さうすると、日本から來るものにも無論課税しますが、日本から來る主なる商品の綿布に付ては

特惠があつて、支那と滿蒙の間に特惠關稅は無いので、是だけでも其の間に非常な差が出て来る。即ち從來無稅で入つて來たものが、税を拂はにやならぬことになるのであるから、滿蒙の市場に於て日本の製品と支那本土の製品とが競争する場合に於て、今後日本の方が非常に有利な地位に立つことは明かでありませう。支那本土から來るものは製品が九割七分五厘原料品が僅か二分五厘であります。年額約九千萬兩に達して居ります。之に對して税を課けることになれば、新國家の收入にもなるし、同時に其の競争品である日本の製品が滿蒙に行きよくなる譯であります。

日本と滿蒙との貿易は出入合計で昭和五年が二億二千萬圓、昭和四年が二億八千九百萬圓と記憶して居ります。之を支那本土に對するものと比べますと、非常に少いのでありまして、日本と支那本土、日本と滿蒙との貿易を比較しますと、六對四位になります。即ち支那全體に對する日本の輸出貿易の四十パーセントが滿蒙に行くことになつて居りますが、是は新滿蒙國家が出来れば、必ず五十パーセントか、六十パーセント位にまでは増加し得ると思ひます。尤も滿蒙は上海とか漢口とか天津とか云ふやうな支那本土の殷盛な地方とは違ひますけれども、今後滿蒙に於て排日を行はず、日本と親善關係を結ぶと云ふことになり、又關稅の關係が今申した通り直接間接日本に有利になれば、日本の對滿蒙輸出貿易と云ふものは數年の間に必ず倍加し得るだらうと言つて可からうと思ひます。故に滿蒙新國家と云ふものが出來て、何が一番日本に恩惠を齎すかと云へば、私は先づ第一に日本の對滿蒙貿易が増進すると云ふことであつて、是は別に保護獎勵を加へなくても、今申した關稅關係と支那人の滿蒙に於ける排日が止み、親日になると云ふことだけで以て直に日本の貿易關係は好轉するものと思ひます。殊に滿蒙政府に日本人が澤山顧問乃至官吏として入り、又後程申すやうに日本人が滿蒙に於

て交通或はマイニングと云ふやうな方面に多くの資金を投することになれば、是亦矢張り貿易を増進する一つの原因となるだらうと思ひます。

貿易に次いで何が最も有望であるかと云へば、私は滿蒙に於ける鑛山業が天然資源の利用として最も有望だらうと思ひます。御承知の通り滿蒙は非常に石炭に富んで居ります。埋藏量三十三億噸とか申して、撫順は有名な炭坑であります。張作霖の掘つて居つた錦州の北方熱河省内に在る北票、新邱炭坑は撫順以上の炭坑であつて、埋藏量も最も豊富で、今後百年位日本に石炭を供給して猶且餘ありと稱せられて居ります。石炭に次いで大切なものは鐵鑛でありまして、是は鞍山站、本溪湖の附近等でやつて居りますが、鐵鑛の埋藏量は約八億噸とか云つて、二百年間位は日本の需要を充し得ると云ふやうなことを申して居ります。其の他滑石であるとか、オイル・シエルであるとか、或は金鑛であるとか、色々なものを擧げられますが、最も有望なものは輕金屬の材料になるマグネサイドを造る粘土であります。ボーキサイド、アルミニウム原料になる粘土は奉天から關東州に掛けて在るのでありまして、錦州のボーキサイド、大石橋のマグネサイドは非常に有望な鑛脈ださうであります。是がうまい工合に行けば、日本の輕金屬工業は非常に有望になつて來ると云ふことを能く日本でも聞きますが、彼方でもさう云ふやうなことを聞いて參りました。又露西亞人の調査に依ると、滿蒙の金鑛は四十五億圓の埋藏量があり、黑龍江省には殊に砂金が多いと言ふことがありまして、滿鐵の調査に依ると、滿洲の地圖には金鑛が一ぱいあるやうになつて居りますが、果して有望であるかどうか私が聽いて見ますと、兎も角あるのだと言ふことであることはあるらしいのでありますが、それを採るのは命がけであつて、掘つても、之を持つて來る時に殺されて

しまふと言ふやうな譯で、實際はさう掘れないさうですが、安奉線附近や關東州附近とか方々に金鑛は澤山あるさうであります。併し今日まで調査も十分出来て居りませぬので、實際四十五億圓も金が埋藏されて居るとすれば、金本位問題は何でもないことで、日本も大に助かる譯であります。それが果してエコノミカルに採掘が出来るか出来ぬか問題であります。

何しろ滿蒙の面積は奉天、吉林、黑龍江の三省だけでも日本内地の二倍半あり、之に熱河省と東蒙古とを加へれば、日本内地の三倍にもなると言ふ莫大な地域でありまして、而も其の土地は日本のやうな山地ばかりでなく、耕作に適した所が多くして、まだ耕すべき面積が千五六百萬町歩あると言はれ、殊に黑龍江省の如きは猶ほ未開の所も多く、それは農業地として最も好適な所で、こゝ六七年は肥料などやらなくても十分に耕作が出来ると言ふことであります。又熱河及び蒙古は非常に牧畜に適し、馬が二百萬頭、牛が三百萬頭、羊が七百萬頭あつて、羊毛の生産額が幾らあるとか、色々な調査が滿鐵から出て居ります。斯う言ふものが總て本當であれば、大變なものであります。マア半分に見ても、例へば金鑛の四十五億圓の半分二十二億圓あつても大したものであります。兎も角滿蒙は非常に天然資源に富んで居りまして、殊に南滿洲は鑛物は富んで居ります。北滿洲の方は是亦鑛物も澤山あるかも知れませぬが、まだ能く調査が出来て居りませぬけれども、農業に適して居ることは確であります。

斯う言ふ豊富な天然資源を利用して行くことは、日本の種々な資料の不足な現在に於て役立つのみならず、一朝事ある際軍事上非常に役に立つ、又將來各國が門戸を閉鎖して、移民の制限をやるとか、輸入品に對して關稅の障壁を高め、或は原料の供給に制限を加へると言ふやうなことで、自給自足主義の經濟政策を執る場合、日本が此の滿蒙を勢力圏内に入れて置くと言ふことは日本の經濟上非常な強味であると思ひます。併し之を開發して行くには無論非常な金が必要なのであります。マイニングの如きものは殊に莫大な金を食ふのであります。南滿洲鐵道會社は四億四千萬圓の株式會社であります。滿蒙の種々の鑛山を開發して行かうと言ふのには、どうしても更に十億圓位の大きな開發會社と言ふやうなものを造らなければ、到底目的を達することは出来なだらうと思ふのであります。

所が私は斯う言ふ説を内地でも聞き、滿洲でも聞いたのであります。即ち今度戰爭したのに付ては陸軍の人は非常な理想を有つて居るのであります。滿蒙を日本の勢力範囲にして置くと言ふことは、日本の國家の將來の爲に必要である。此處に將來本當に日本の爲になる統制經濟の社會を造らう、隨つて滿蒙には從來の如く政黨屋とか利權屋とか言ふ者の跋扈することを許さぬ。それ等は絶対に排斥すると言ふやうなことを聞いて居りますが、實際向ふへ行つて軍の人達其の他に聽いて見ますと、必ずしもさうではないのであります。併し今回の事變に付ては新瀉、青森、岩手と言ふやうな田舎の兵隊が來て戰爭をしたのであつて、將校は職業であるから、己むを得ないけれども、兵卒は義務として此の寒さと戦ひ多大の犠牲を拂つて奮戦をした。其の結果として滿蒙を日本の手に握ることが出来たのであるから、何とかそれ等の兵士達に惠澤を與ふるやうな方法を講じなければならぬ。それを大倉とか三井三菱と言ふやうな者が來てコソツト利益を壟斷して行くとか、或は政友會とか民政黨の者が來て勝手に利權の拂下を受けるとか言ふやうなことがあつては仕様がなからさう言ふことは嚴禁して、一般國民、殊に滿蒙に於て苦戰した人々が今後滿蒙に於て樂天地を見出すやうにして見たい

と言ふ考を有つて居るやうであります。併しそれに付てはどうしたら可いかと言ふことに關する意見は何も聞いて居りませぬさう言ふ譯であつて、此の理想は洵に宜いのでありますけれども、併し今申した通り、滿蒙のマイニングを開發することは一番利益があるが、其の利益なものを開發するには資本が無ければならぬ。其の資本は何處から持つて來るかと言へば、矢張り大きな資本家から集めて來なければならぬ。さうすれば財閥排斥など、言つても逆も資本は集らないのであるから、必ずしも財閥憎むと言ふのではない、唯一二の財閥が利益を壟斷すると言ふことがあつては可かぬから、大きな資本家が犠牲的精神に甘んじて、金を出して呉れることになれば、是程宜いことはないと言ふ考の人が多いやうであります。又、どうして資本を集めて滿蒙開發に當るかと言ふことに付ては何等意見を聴くことは出來なかつたのであります。又實際問題として其處までは話が進んで居らないと思ひます。それは今後徐に決定すべき問題であります。併し其處に至るまでの新國家成立のどさくさ紛れと言ふやうな時に、政黨關係の人とか財閥關係の人が行つて、一つ甘いことをせしめてやらう、利權にあり付かうとしても、それは斷然排斥し、秩序が立つて相當な計畫が確立するまでは個人其の他政黨關係者等が色々運動をしても利權をやらぬと言ふことは確定方針のやうであります。

次に滿蒙の農業の有望なことは勿論であります。之に關聯して日本の移民をどうするかと言ふことは非常に重要な問題であります。折角日本が滿蒙を自由になし得るやうな新國家を造つて、治安の維持をしても、唯支那人がだん／＼入つて來るだけでは何にもならぬ。現に日露戦争後と今日を比べれば滿洲に於ける支那人の數は三倍にもなつて居り、尙ほ年々七八十萬づゝの支那人が殖えて居るのでありますから、其の勢ではから／＼支那人がやつて來て滿洲に根を張り、

日本人の行く餘地が無くなると言ふことになれば、何の爲に戦争を起し、何の爲に多大の犠牲を拂つて苦心をしたか分らなくなるから、一面に於て支那人の移住を制限する方法を考へると同時に、日本人を成べく多く農業移民として移住せしむると言ふことが望ましいことであるが、それにはどうしたら可いか、屯田兵の制度を利用するのも可からう、或は滿蒙には國有の土地原野が非常に多い、さう言ふものを無償で拂下げてやるとか、有利な條件で拂下けるとかして、日本の集團的移民を送り、大農組織で經營をさせることにし、それに對して日本政府が助成金をやると言ふ方法も可からう。朝鮮人の如きは放つて置いても増加するだらうし、支那人は自然に増加し過ぎて困るだらう、のみならず、露西亞人でソヴィエットの壓制政治を脱れて南下して來る者もあるだらう、さうして獨り日本人が寒いからと言つて行かないで居る間に他國の者が／＼やつて來て、ズツと地面を占領されてしまつては仕様がなからう、兎に角凡ゆる方法を盡して日本人を成べく多く移住せしむることにしなくちやならぬと言ふので、大分に意見の交換も致しましたが、結局土地を安く手に入れば、政府の補助金に依つて集團的の農民を送り、それに對して防寒の設備のある家屋を建て、やるとか貸下げてやり、或は農具も年賦償還の形にでもし給與してやるとか、或は屯田兵を兼ねた制度にして多少の生活費を補助してやるとか、色々な方法に付て議論もありましたが、別段是と言つて纏つたことは聴かなかつたのであります。

さう言ふやうな譯でありまして、兎に角滿蒙と言ふ所は日本内地の三倍の面積があり、住民は現在約三千萬であつて、今後日本と同じやうな密度にまで之を殖すと云ふことになれば、尙ほ一億位の人間が入つても可い譯でありますから、現在も亦將來も非常に有望な所であつて、是は確に日本の行詰つた經濟界の前途に光明をなげるものであると言ふことに付

ては間違ひはありませぬが、併し之を物にするのには金と力と人が必要であつて、力は陸軍に委かして置いて大丈夫としても、金の方はなか／＼困難な問題であるし、人の方も多いいけれども、唯多いと言ふだけであつて、朔北の寒い所で奮闘して一新生命を開かうと言ふやうな堅忍不拔な人間は甚だしい、色男ではない金と力のある者が必要であるが、どうして人と金を集めて、滿蒙開發に當るかと言ふことは今後大に攻究すべき問題だらうと思ひます。其の點に於て私は成べく多く内地の人が滿蒙を視察して、如何に滿蒙を開發すべきかに着眼し、之に資金を投じて、どう言ふ事業をどうして起すかを計畫せられんことを希望する次第であります。

尙ほ一言附加へて置きますが、インダストリーの工業の問題は日本内地との關係がありますから、特に滿蒙に於て起す方が有利であると言ふものは起すが可いけれども、然らざる限り、今日既に日本の内地に於ては設備の過多、生産の過剩で弱つて居るのだから、殊更保護奨励を加へてまで滿蒙に種々の工業を起す必要はあるまいと言ふのが一同の共通した意嚮のやうに私は聽いて参りました。

甚だ雑駁でありますが、私が過般彼地に於て會議に列し、或は其の間色々聞き込みましたことを綜合いたしました、大體滿蒙の經濟問題に付て卑見を述べた譯であります。(拍手)

終

